佐久島体験マップ

佐久島は「にほんの里100選」に選ばれました

長岡勉『知識の蜂の巣』（佐久島ナビステーション内）

佐久島の地理

愛知県下に三島ある有人島は、すべておだやかな三河湾内に位置する。西尾市一色町佐久島はその中で、最大の島である。

約二五〇〇万年前に海中で堆積し、各所からその時代の化石が多数採取されている。

面積は一七三ヘクタール。東京ディズニーランドの約三倍で、海岸線の総延長は約十一キロメートル。

島名の由来

崇神天皇の頃（前一世紀）、伊勢の斎宮の郷に、作彦という臣がいた。伊勢志摩の島を見回る折に島を訪れ、その景勝を大いに気に入って移り住み、農業を始めたことから「作島」と呼ばれるようになったと伝えられる。

文献の中に初めて佐久島の名前が現れたのは、七世紀後半の藤原京時代。藤原宮跡から、土地の産物を献上した際の荷札に「佐久嶋」と書かれた木簡が出土した。その後、八世紀、奈良時代の平城京跡から出土した木簡には「析嶋」の名が見つかっている。

島の歴史

あまり知られていないが、佐久島の歴史は古い。侵蝕によって失われた石垣の地層からは、かつて縄文土器の破片が発見されている。弥生時代のものとしては、三ヶ所の貝塚が見つかった。一世紀から三世紀にかけて作られた、さまざまな様式の弥生式土器も出土している。

海を生活の場とした海部族の末裔たちによって、江戸時代には海運業で繁栄した。八劔神社本殿や、八日講祭り、西の盆踊りは、その頃の佐久島独自の文化を今に伝えている。昭和二十九（一九五四）年、佐久島は一色町に編入合併。平成二十三年四月、一色町は吉良町、幡豆町とともに西尾市に編入合併された。

佐久島太鼓

佐久島太鼓は島の祭りに欠かせない。八月十六日の弁財天祭典（筒島弁天社）、旧暦八月十五日の白山十五夜祭り（白山社）、十月十七日の「秋の大祭」（八劔神社）で、披露される。

佐久島太鼓の「バチ」は、途中でゆるくカーブしていて、野球のバットのようなグリップが付いている。太鼓そのものも、一般的な和太鼓よりもゆるく皮が張ってあり、遠心力によって加速したバチで打ち込まれる音色は、その重低音が聴く者の度肝を抜くだろう。

佐久島太鼓の特徴は、その独特な音色だけでなく、多彩な祭囃子にも現れている。圧倒的なドライブ感を持つ「早手」は、太鼓師の男たちにとって腕の見せ所だ。また、奉納太鼓の最後を飾る「さがり」は、スローテンポで溢れるような叙情をたたえ、力技を越えた調べは、聴く者の胸を打つ。

佐久島を知る

西と東

佐久島の人々は、古くから、島の東西ふたつの集落に分かれて暮らしている。島で「西」と言えば「西集落」のことを指す。小さな島の中に、直線距離にして1キロ足らずしか離れていない東西集落だが、東は「筒井姓」、西には「高橋、藤井姓」が圧倒的に多いなど、異なる特徴がある。

島の交通

佐久島を訪れるには、市営の渡船か民間の海上タクシーを主に利用する。では、島内の交通は？　佐久島には信号機がひとつもない。車もそれほどたくさんあるわけではない。島内観光の足は、まさに観光客自身の足である。

もっとも海岸線の総延長は、十一キロ程度であるから、島中を歩き回っても、丸一日あればすみずみまで歩くことができる。歩くにはちょうどいい大きさだ。日ごろ、ちょっとした距離でも車を使いがちな人に、歩く楽しみを再発見させてくれるのもまた佐久島の魅力のひとつだろう。なお、西港から東港へは徒歩約三十分。

島の経済

海に囲まれた環境と、三河湾国定公園の中にある風光明媚さ。島の主な産業は、漁業と観光業である。島民の多くは自給のために畑で野菜をつくる。また、三月から五月にかけてのアサリ漁は島民の収入を支えている。アサリ採りでは、老若男女の区別なく、実力のある者が多く収穫する。老人、女性の活躍の場である。

三河・佐久島アートプラン21

祭りとアートに出会う島

高齢化と過疎化の問題を抱える佐久島は、平成十三年度から、地域活性化を目指し、「祭りとアート」をキーワードに年間を通してさまざまなイベントを開催している。アーティストと島民、来島者の交流のために、美術展やワークショップがおこなわれている。

展覧会やアート・イベントは、開催時期や内容を佐久島でおこなわれる祭事や伝統行事と合わせ、双方がコラボレート（協働）できる企画を開催中だ。

現在、島内各所に二十二作品が常設展示されており、スタンプラリーをしながら年間を通してアート廻りを楽しんでもらえる環境を提供している。

「島がアートを引っぱり、アートが島を引っぱる」——。事業は、島とアートがお互いにインスピレーションやエネルギーを与え合うことで今後も、佐久島の活性化を目指していく。

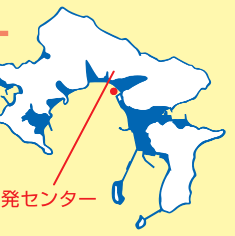
木村崇人「カモメの駐車場」2005年

店舗・宿 Information

		地図No.	施設名	TEL（0563）	セールスポイント	位置
佐久島観光の会加盟店	宿泊	①	さざなみ 東	79-1234	自然に囲まれ、展望風呂からの夕日と朝の小鳥のさえずりが楽しめる宿。昼食営業しています。	C5
		②	市兵衛 東	79-1103	家庭的な雰囲気で、新鮮な海の幸をお召し上がりください。	C4
		③	佐久島館 東	79-1007	地元の海の幸をお客様のご要望に合わせてご提供します。気軽におくつろぎ下さい。	C4
		④	旅館 鈴木屋 東	79-1221	佐久島ならではの、獲れたての旬の素材を活かした活魚料理が自慢の宿。	C4
		⑤	ゆきや 東	79-1020	日本一新鮮な朝ごはんの宿と食堂。定置網漁体験もできます。お昼ご飯営業してます。 🚲	C4
		⑥	千鳥 東	79-1008	旅情豊かな海辺の宿。新鮮、獲れたての海の幸でおもてなし。	C4
	食堂・カフェ	⑦	ごはん屋　海 東	79-1910	隠れ家のような落ち着いた雰囲気の古民家で旬の海の幸をおいしく召し上がれ。	C5
		⑧	島の駅さくしま 東	080-4898-2654	島で一番種類の多いお土産屋＆２階席から海が見えるドリンク店。搾りたて和栗モンブランアイスも大人気！	C4
		⑨	喫茶 べんてん 東	79-1452	東港のすぐ前。散策の休憩にコーヒーはいかがですか。夏はかき氷、ソフトクリームもどうぞ。	C4
		⑩	すゞ屋 東	79-1044	元祖大あさり丼の店。海の幸の一品料理もいろいろあります。	C4
		⑪	ほっこり島 Café 東	090-6585-0094	窓から見える風景を眺めながら、ほっこりとした時間と空間を過ごせる島 Café へ是非どうぞ♪	D4
		⑫	みぎわ 東	79-1450	島は野菜も旨い！やわらかく甘い玉ねぎの大きなかき揚げがのった佐久島丼熱々。生産果実のシロップ推し	B3
		⑬	海の家ゆきや 東	—	ＢＢＱと貸自転車をどうぞ。	B3
		⑭	なぎさ 東	79-1062	ＢＢＱ、丼物、定食すべて佐久島でとれたものばかり。お気軽にどうぞ。海水浴シーズンのみ。	B3
		⑮	サクカフェ aohana 東	080-4898-2654	〝幻のふわふわカキ氷〞〝金魚鉢カキ氷〞が名物の古民家カフェ。島野菜＆麺類ランチも人気！	B4
		⑯	cafe OLEGALE 西	090-1232-7484	片手で食べれる具だくさんおにぎり「オレマキ」や大アサリ丼などしっかりごはんや手作りおやつ、自家製ドリンクなど。素泊りの夕食もご相談ください。	B2
		⑰	茜はなれ（Café KumaHale） 西	090-7867-9077	南国雰囲気たっぷりの黄色いバスが目印。可愛くて美味しいデザートテイクアウトカフェです。	C2
		⑱	カフェ百一 西	090-4187-6271	黒壁の家で海を見ながら、自家焙煎のコーヒーや西尾の抹茶をどうぞ。	C1
		⑲	オーシャンキッチンにぃやん 西	090-7432-7551	漁師の店‼地元でとれた魚介類を使って、こだわりの創作料理を提供します。	C1
		⑳	Oyaoyacafe もんぺまるけ 西	080-3643-5083	自家製ドラ焼きやあんみつが自慢のカフェ。かまどごはんランチも。ジェラートも NEW　OPEN！	C2
		㉑	蔵 ssic 西	080-5124-2707	ゆったりした店内でふわふわのシフォンケーキとドリンクでゆっくり休めます。営業は週末のみです。	C2
		㉒	カフェ　うる 西	080-5151-4822	おひるねハウスのすぐ近く。佐久島のインスタ映えカフェ！	C2
	お店	㉓	森の小さな仲間たち 東	090-4440-3054	うさぎの動物園＆オリジナルグッズの店。佐久島富士山散策の途中に癒されませんか。	C4
		㉔	gallery&shop はる雲 東	—	（大・昭・平）三時代を経て島民を支えてきた商店を改装し風変わりなアートと懐古空間を体感できるギャラリー。喫茶席も有ります。	C4
		㉕	レンタル自転車遊々 東 西	79-1432	レンタル自転車屋。走って遊んで佐久島の探検に出かけよう。 🚲	C4 C1
		㉖	レンタル自転車愛ランド 東 西	79-1456東店 090-8677-2528西店	お天気の良い日は、サイクリングで島を満喫しよう！スタンプラリー完走賞もあります。 🚲	C4 C1
		㉗	根っこの家 西	090-7683-9446	ひと昔前の暮らし体験ができる日帰りキャンプ場。土日祝日は根っこ塾開催中	C2
		㉘	まなの風 東	090-9198-2448	リラクゼーションや藍、ハーブ栽培と WS、佐久島同行ガイドなどで「本来の自分に還る」体験が出来る場所	B4

防災情報

- 島内放送をよく聞く
- 放送は状況によっては聞こえづらいこともあるので注意
- 津波待避場所や近くの高台に避難！
- 安全が確認された後、避難場所の開発センターへ移動



■ 青色…津波浸水想定区域

◆ **地震**／想定最大震度７

◆ **津波**／津波の高さ　5.1m（想定）
津波到達時間　41分（想定）

佐久島散歩のほっとできる休憩所

弁天サロン　TEL.0563-78-2001
※施設の詳細は情報面「アートに出会う」をご覧ください。

交通に関するお問合せ

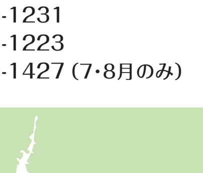
佐久島行船のりば TEL.0563-72-8284	西渡船場（佐久島） TEL.0563-79-1002
東渡船場（佐久島） TEL.0563-79-1006	西尾市役所佐久島振興課 TEL.0563-72-9607

島内関係各所　お問合せ

佐久島診療所	TEL.0563-79-1414
西三河漁協佐久島支所	TEL.0563-79-1231
佐久島クラインガルテン	TEL.0563-79-1223
大浦海水浴場管理棟	TEL.0563-79-1427（7･8月のみ）

三河・佐久島アートプラン21に関するお問合せ

西尾市役所佐久島振興課
佐久島ナビステーション内
TEL.0563-72-9607
オフィスマッチングモウル
TEL.0564-58-2787



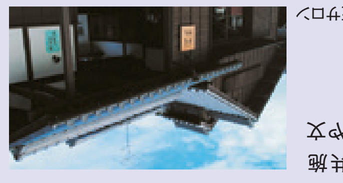
佐久島のこと、アートプランのこともっと知りたい！

佐久島公式サイト　三河・佐久島アートプラン21サイト　佐久島アート Instagram　三河・佐久島アートプラン21Twitter

佐久島体験マップ
発　　行：西尾市
地図制作：松岡徹　　写真撮影：尾﨑芳弘（表紙）、香村聖文
企画制作・編集：オフィスマッチングモウル
協　　力：佐久島のみなさん
2002年７月発行／2023年６月　21版発行　50,000部

アートに出会う

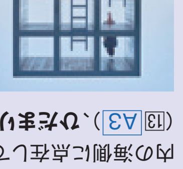
2001年からスタートした佐久島のアート・プロジェクト（三河・佐久島アートプラン 21）では、年数回の現代美術の展覧会やワークショップを開催している。西集落にある**弁天サロン**（C2）※1は、島巡りの休憩所として気軽にご利用いただける公共施設。２階屋根裏の間では、島の歴史や文化の紹介を常時展示中。



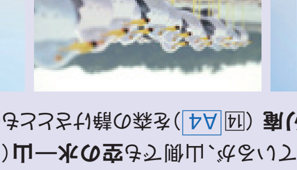
弁天サロン

※1 弁天サロン／午前９時～午後５時、月曜休館（月曜が祝日の場合、祝日明けの最初の平日休館）。12/29～1/3 休館。7, 8月は無休。飲食施設なし、西港徒歩４分。入場無料。

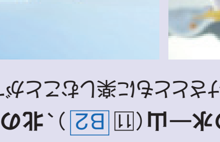
展覧会やワークショップの他に現在、佐久島では常設作品を巡るふたつのプログラムがある。**佐久島アート・ピクニック**※2 は、**おひるねハウス**（8 C2）や**カモメの駐車場**（16 B3）、**イーストハウス**（17 C4）などのアート作品をスタンプラリーしながら巡るコース。
人気撮影スポットとして知られる佐久島アートの代表的な作品はこのコース内の海側に点在しているが、山側でも**空の水一山**（11 B2）、**北のリボン**（13 A3）、**ひだまり庵**（14 A4）を森の静けさとともに楽しむことができる。



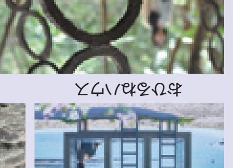
おひるねハウス



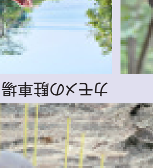
カモメの駐車場



イーストハウス



空の水一山

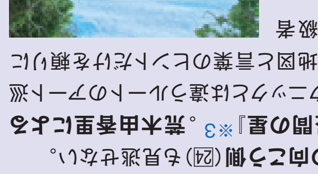


北のリボン

ひだまり庵

佐久島アート・ピクニックでは、海、山に加えて、佐久島行きの渡船に乗船する船のりばから徒歩３分の**佐久島ナビステーション**にある**知識の蜂の巣**（23 表紙画像参照）、**すぐそこの向こう側**（24）も見逃せない。
アートを巡るもうひとつのコースは『**昼間の星**』※3 。**荒木由香里による８点の常設作品**が、佐久島アート・ピクニックとは違うルートのアート巡り。スタンプラリーも作品看板もなく、地図と言葉のヒントだけを頼りに思いがけない場所で作品に出会う上級者向けのコースとなっている。

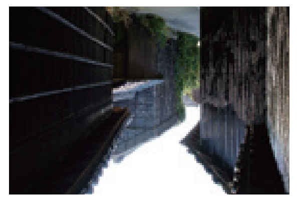
※2.3 「佐久島アート・ピクニック」スタンプシートと「昼間の星」巡りガイドは、各渡船場と弁天サロン、佐久島ナビステーションで無料配布中。



星屑のテーブルクロス（昼間の星）

黒壁集落を歩く

佐久島の最も印象的な風景といえば、西地区の崇運寺 C1 から大葉邸（7 C2 ）界隈の三河湾の黒真珠と称される**黒壁集落**だ。潮風から建物を守るためにコールタールで塗られていた家並みの景観を残すため、島民やボランティアが保存活動に取り組んでいる。細い路地は迷路のように複雑に入り組んでいる。のんびり昼寝をする猫たちに出会えるのも黒壁集落を歩く楽しみのひとつ。迷子になったら散歩しているおばあちゃんに道をたずねてみよう。



黒壁集落

島で遊ぶ

大浦海水浴場

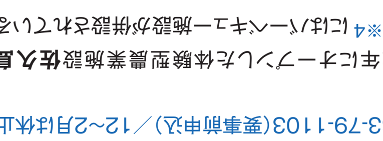
大浦海水浴場 B3 では春の潮干狩りを楽しもう。入漁券は潮干狩り場で購入。（問い合せは西三河漁協佐久島支所へ。3～6月頃／有料）
夏は県内屈指の美しい海で海水浴をどうぞ。更衣室・シャワー・トイレ完備。（7/1～8/31）

風をきって島巡りするなら**レンタル自転車**がおすすめ。交通ルールを守ってサイクリングを楽しもう（ハイキングロード等山の中は未舗装なので要注意）。

漁船体験

佐久島を海から楽しむプログラム「漁船体験」は、漁師さんの楽しい解説を聞きながら約40分間の佐久島一周クルーズです。
[定員：4名から（最大9名）／参加費：4名7200円／問合・申込先：民宿市兵衛 ☎0563-79-1103（要事前申込）／12～2月は休止]

2012年にオープンした体験型農業施設**佐久島クラインガルテン**（11 B2 ）※4 にはバーベキュー施設が併設されている。全天候型の屋根付き東屋で、海の幸のバーベキューを楽しめる。



クラインガルテン
バーベキュー施設

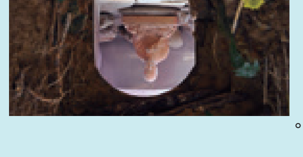
※4 佐久島クラインガルテン／午前9時～午後5時、月曜休館（月曜祝日の場合、週明けの最初の平日休館）。12/29～1/3休館。7/20～8/20は無休。

弘法道を歩く

昔ながらの弘法さんの祠

佐久島弘法は大正5（1916）年、四国八十八ヶ所の写し霊場として弘法大師の祠が建造され、戦前には島外から多くのお遍路さんが訪れにぎわったが、近年過疎と高齢化によって縮小をよぎなくされていた。三河・佐久島アートプラン21では、3年に渡り建築家による弘法の祠の新設、建築を学ぶ学生による祠のリノベーション、失われた弘法大師座像を二人のアーティストが制作する「佐久島弘法プロジェクト」を行い、2012年春、数十年振りに**佐久島弘法巡り**※5 が復活した。毎年旧暦の3月21日には島中の祠に花が飾られ、お菓子などを参拝者にふるまう「お接待」が行われている。

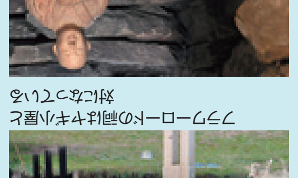
※5 佐久島弘法巡り／八十八弘法の途中にある19ヶ所のポイントをめぐるスタンプラリー。東西渡船場、弁天サロンでスタンプシートを無料配布中。阿弥陀寺と崇運寺のどちらからスタートしてもOK。



富士山弘法道の『青』

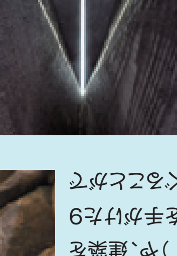
佐久島弘法八十八ヶ所巡りは、第一番札所である東地区の**阿弥陀寺** B4 から西地区の第八十八番札所の**崇運寺** C1 まで、森の中を中心に、時に海辺や黒壁集落など、さまざまな佐久島の風景に出会う新たな散策道でもある。途中建築家によって新たに建てられた『**サンカク**』（祠⑥ D5 ）、『**青**』（祠⑤ B5 ）、『**銀**』（祠④ B4 ）、『**空海郵便とビリー・ザ・キッド**』（祠③ B2 ）、『**ほりぞん**』（祠② B2 ）、『**コウボウノコシカケ**』（祠① C1 ）や、建築を学ぶ学生達がリノベーションを手がけた9棟の祠をスタンプラリーでめぐることができる。

フラワーロードの祠はヤギ小屋と対になっている

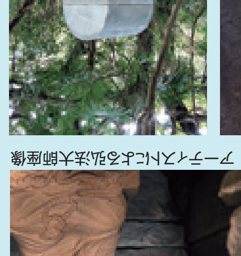


アーティストによる弘法大師座像

第一番札所から八十八番札所まですべて歩くには、所要時間3時間程度。



筒島入口にある『サンカク』

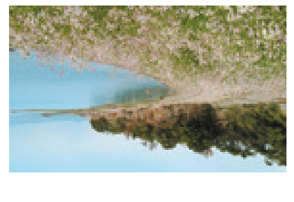


大山弘法道の『対』は学生作品

自然を歩く

島内には暖地性、海岸性の植物が生息している。10キロしか離れていない本土と異なる植生は、南の島気分を満喫できる。島の北側の東西をつらぬく**ハイキングロード**は別名「椿ロード」。2000本のヤブツバキがトンネルのように続く。（3～4月頃）

ハイキングロードのヤブツバキ



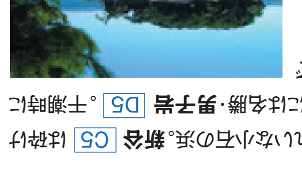
丹梨海岸のハマダイコン

大島・佐久島のお庭の梅園

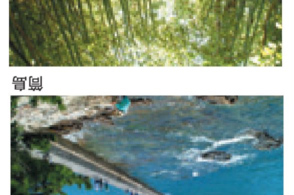
春を告げるのは、大島の『**佐久島のお庭**』（19 D4 ）にある**梅園**だ。紅白の梅の香りに包まれてかわいい小道を歩こう。（2～3月頃）4月になると咲き出すのが**ハマダイコン**。島内各所で可憐な花を咲かせる。特に**石垣** C2 と**丹梨海岸** B5 の群生は感動的だ。島の東西を結ぶ**フラワーロード**には、佐久島しおさい学校の子ども達が丹精した花々が散策の目を楽しませてくれる。12月には**白山神社** B2 参道にサザンカが咲き出し、1月から2月まで島中でスイセンが香り立つ。佐久島は一年中花咲く島なのである。

軍艦岩とも呼ばれる男子（おんぞ）岩

海岸線もみどころが多い。**丹梨** B5 はきれいな小石の浜。**新谷** C5 は砕けた貝殻が浜辺を薄紫に染める。筒島の手前には名勝・**男子岩** D5 。干潮時には歩いていくことができる。滑りやすいので足もと注意。
珍蒔 B3 、**大明神** D3 、**高千谷** A4 、**大島南側** D4 は干潮になると風景が一変し「鬼の洗濯板」のような岩棚が壮観だ。磯の生き物を観察するのも楽しい。
筒島の**弁財天社** D5 の奥の院は竹林になっていて、島を半周できる歩道がつくられている。竹林が突然開けて海を見晴らせる場所もあり、気持ちいい散策コースのひとつである。



筒島



筒島奥の院の竹林

祭りに出会う

信仰の島、佐久島の一年は、毎年1月8日に**八劔神社** B4 の**八日講祭り**から始まる。「鬼」の字が書かれた八角凧に厄男が邪気払いの弓を射ると、島民は厄払いに凧の骨を奪い合う。250年の歴史を持つ伝統の祭りだ。

八劔神社の八日講祭り

佐久島太鼓

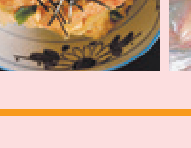
島の祭りの中心はいずれも**佐久島太鼓**の奉納である。男たちは見事な太鼓の打ち込みを披露する。素朴で力強い太鼓は一度聴けば忘れられない迫力がある。
お盆の8月14日には、**崇運寺** C1 で江戸時代から続く伝統の盆踊り**ヤートセ**がおこなわれる。8月15日には東西の港で、茅の舟に線香をともした**精霊流し**で静かに先祖を送る。

西の盆踊りヤートセ

特産品を味わう

東渡船場のとれたて里の市

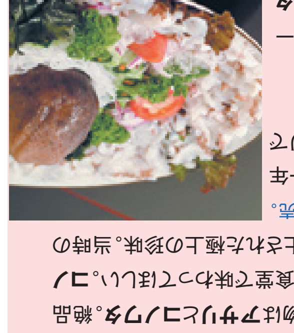
干物



佐久島名物大アサリ丼

島の特産物を買うなら、東西渡船場にある無人市。島のお年寄りが丹精込めて育てた野菜をめしあがれ。春先には**天然の干しワカメ**も並ぶ C1 C4 。
季節の海の幸を天日干しした**手作り干物**は島内イベントや前日予約があれば民宿でも販売している。佐久島を代表する海産物は**アサリ**と**コノワタ**。絶品の**島アサリ**は3月～5月のシーズンにぜひ民宿・食堂で味わってほしい。**コノワタ**はナマコの内臓の塩辛で、徳川幕府にも献上された極上の珍味。当時の製法を今に受け継ぐ伝統の味。（12～2月限定販売。問い合わせは漁協へ）名物料理の**大アサリ丼**は、一年中食堂で味わうことができる。漁師さんが素潜りで採った新鮮な大アサリをお気軽なお値段で。

三河湾の海の幸なら、プリプリした食感をヘルシーな鍋で楽しむ**タコしゃぶ**がおすすめ。夏期限定の**タコの冷しゃぶ**はサラダ感覚で味わえる。
（民宿で要予約）



タコの冷しゃぶ

歴史を知る

佐久島には古墳時代後期の古墳が、かつて50基あまり確認されている。その代表が**山の神塚古墳** B2 だ。6世紀後半～7世紀の横穴円墳。漁業をなりわいとした海部族の長の墓ともいわれ、石棺からは美しい碧玉・金環が出土した。他に**秋葉山古墳** B4 、**石垣第一号古墳** C2 、**外浦古墳** A2 、**平古古墳群** C5 を見学することができる。

大山にある山の神塚古墳

八劔神社本殿

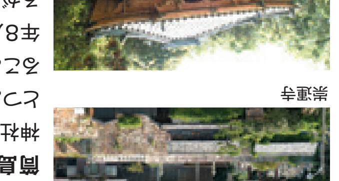
1024年創建と伝えられる**八劔神社** B4 には、江戸時代初期に再建された**八劔神社本殿・神明社本殿**が残っている。現在は、八日講と秋の大祭の折に公開される愛知県指定有形文化財。

阿弥陀寺観音堂

阿弥陀寺境内 B4 にある観音堂の寄木造の**如意輪観音座像**は、1600年の銘があり、愛知県指定有形文化財である。離島の観音信仰の貴重な仏像だが現在は非公開。

崇運寺

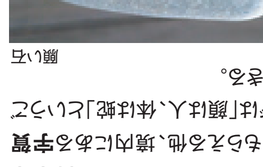
1192年、後鳥羽上皇の第七皇子と伝えられる青蓮院によって建立されたといわれる**崇運寺** C1 には、戦国時代の板碑があり、徳川家康が滞在したという言い伝えも残っている。



筒島弁財天社

筒島弁財天 D5 は、蒲郡竹島の八百富神社と豊川三明寺に並ぶ**三河三弁天**のひとつ。室町時代前期（約600年前）の作であることが新たに判明した「弁財天坐像」。毎年8月16日には弁財天祭典がおこなわれるが、本開帳（巳年）と合開帳（亥年）の6年に1度しか弁財天の姿を拝むことができない。弁財天祭典当日には、社務所で**御朱印**の押印をしてもらえる他、境内にある**宇賀神祠** B2 では「顔は人、体は蛇」というご神体も拝観できる。

筒島では、弁天さんへの願い事を平らな石に記す「**願い石の奉納**」が行われている。お願いごとがかなった時は、お礼石を奉納して感謝の気持ちを捧げる。



願い石